

# 平成26年度 学校関係者評価

## 学校自己評価システムシート

### (熊谷市立妻沼南小学校)

目指す学校像	「学校・家庭・地域の連携のもと、生きる力を育む教育実践を追求する学校」
重点目標	1 児童一人一人に基礎基本を確実に身につけさせ、自ら学び、よりよく問題を解決する能力を育成する。 2 人とのかわわりを大切にし、「思いやりの心」を育成する。 3 個々の体力の向上を図り、生涯にわたって運動する児童を育成するとともに、安全意識の高揚を図る。 4 快適で意欲を高める環境づくりに努めるとともに、保護者や地域社会との相互理解を深める。

達成度	A	ほぼ達成 (9割以上)
	B	概ね達成 (8割以上)
	C	変化の兆し (6割以上)
	D	不十分 (6割未満)

出席者	学校関係者	4名
	事務局(教職員)	2名

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				年度評価 (2月20日現在)			実施日 平成27年2月23日	
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力の個人差が大きく基礎基本の学力が身につけていない児童もいる。</li> <li>読書については、比較的に良く取り組まれているが、学習時の姿勢や鉛筆の持ち方が身につけていない児童も多い。</li> </ul>	<b>学習の基礎基本の定着</b>  <b>読書活動・学習規律の確立</b>	① 言語活動を充実するとともに、漢字・計算の定着を図る。  ② 学ぶ楽しさのある学習活動を設定し、学習意欲を喚起する。  ③ 読書カードを工夫し、マイチャレンジゴールを達成させる。  ④ 学習規律の徹底を図る。特に、姿勢・鉛筆の持ち方や学習の約束を徹底する。	① 漢字・計算検定の合格率 90% 以上達成したか。言語活動が充実していたか。  ② 体験的な学習を各学年に設定できたか。  ③ 低学年 100冊、高学年 5000 頁を達成できた児童が 80% となったか。  ④ 職員・保護者のアンケートで、「できている」と感じているか。	① 漢字検定 94%、計算検定 93% 達成。詩の暗唱、辞書引き、新聞コラム、視写等の新たな取り組みを開始することができた。  ② サイエンスショー、路線バスでの社会科見学を新たに実施できた。生活科・総合学習でも町探検を実施できた。  ③ マイチャレンジゴールの達成率は、68%  ④ できていると感じている職員 63%、保護者 65%	B	○ 学習の定着を図るために、国・算については、再評価テストを行う。  ○ 各体験的な学習を年間を見通して位置づける。  ○ 家庭と連携し、読書を推進する。読書の楽しさを感じさせる集会等を実施する。  ○ 「腰骨を立てる」ことを意識させる時間の設定。	・「やればできる」という気持ちをもって学習することが大切。さらに上をめざして努力するために、競争心があってもよい。子どもたちへの先生の声かけも効果は大きい。  ・マイチャレンジゴールのように、目標を立てて努力していく取り組みもよいと思う。
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年間の枠を越えてなかよくできる児童が多いが、場に応じて言葉を使い分けることに課題がある。</li> </ul>	<b>豊かな心の育成</b>  <b>場に応じた言葉づかい</b>	① 縦割り活動、集会、学校行事を通して、お互いを尊重できる子を育成する。  ② 道徳教育、学級活動の授業を充実し、思いやりのある言葉を使える子を100%にする。	① 職員・保護者のアンケートで、「できている」と感じているか。集会や行事等での児童の感想は、充実感を感じられるものになっていたか。  ② 職員・保護者のアンケートで、「できている」と感じているか。	① できていると感じている職員 76%、保護者 99%。  ② できていると感じている職員 67%、保護者 79%	B	○ 高学年の自覚を促す。肯定的な感想を賞賛する。縦割り班活動の内容を見直す。  ○ 児童への振り返りの実施。継続的な声かけの実施。	・縦割り班で仲良く行動できている。同時に中学進学を見越しての指導があるとよい。特に先輩後輩の縦のつながりがはつきりしているあいさつの指導は必要に思う。 ・はにかむ子はいるが、あいさつはできている。班長さんに促されてあいさつをする子もいる。 ・小規模校で、先生の目が行き届いている。一人一人に対応できている。時間で行動することなど「まじめに生きる」よさを指導している。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力の全体の平均は県を上回っている種目が多いが、積極的に外遊びをしたり、運動に取り組む児童が少ない。</li> <li>スクールガード制度が機能しており、登校・下校中の安全が守られている。児童の安全に対する意識に課題がある。</li> </ul>	<b>基礎体力の向上</b>  <b>交通安全防止</b>  <b>危機管理の徹底</b>	① 低・中・高学年ブロック体育を充実し、体育好きな子を100%にする。  ② 実技研修を実施したり、スポーツタイムを充実したりして新体力テストの数値目標を達成する。  ③ 交通事故防止のための指導の徹底と交通安全意識の高揚を図る。(交通安全事故防止合い言葉の周知徹底・自転車運転免許教室の実施)  ④ 大災害に備えた避難訓練や家庭との連携マニュアルの改訂。	① 授業研究会をどの学年も年間1回は行えたか。体育が好きと答えた児童の数値。  ② 研修の実施の有無。新体力テストは、県や市の目標値を達成できたか。市→県の平均よりも上回る項目 80%  ③ 交通事故防止に関する安全への高揚が児童・保護者に図れたか。  ④ 整然とした避難訓練が実施できたか。  ⑤ 被害や児童の実態に見合ったマニュアルとなっているか。	① 全担任が授業研究を実施。体育が好きと答えた児童 94.9%  ② 自由遊びの時間を週1回から3回へ見直した。体力テスト研修を実施。新体力テストで県平均を上回る項目の割合 70%  ③ 登下校中の交通事故 0 件、放課後の交通事故 1 件、安全の合い言葉の定着 100%  ④ 年間 3 回の全校避難訓練を実施。(地震休み時間における地震、不審者対応)  ⑤ 震度 5 弱時の実効性のあるマニュアルに改訂し、保護者に周知。	A	○ ブロック体育のあり方の見直し。 ○ 外遊びの奨励。  ○ 学級活動で、危機予測の授業を実施。  ○ 緊急地震速報を活用した短時間の訓練を計画する。	・学年をこえて外にいる先生といっしょに遊ぶ自由な時間が増えたことはよいことと思う。  ・交通安全の合い言葉を必ず言って帰るのは、意識化につながるのよい取組だと思う。 ・学区に手押しの信号があるが、大人数で登下校していると危ない場面もある。周囲を見て歩くようになるとよい。 ・訓練で危機回避経験ができる。地域の防災訓練もあるので、大勢の子どもが参加できると防災意識も高まる。 ・交通安全の看板も新しく増え、目立つところに設置することができた。自治会とも連携ができている。
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>開校21年目を迎え、施設設備に不具合が生じている部分が出てきている。</li> <li>保護者や地域の方は学校に関心があり、協力的な方が多い。さらに理解を深め、連携を推進する必要がある。</li> </ul>	<b>施設設備の効果的な活用</b>  <b>保護者・地域住民との連携</b>	① 安全点検の実施。安全を最優先した校舎等の補修。意欲を喚起する掲示や展示の工夫。  ② 学校だよりの地域配布。ホームページの更新。地域の人材活用。放課後子供教室との連携。時に応じたメール配信。  ③ 人材活用が積極的にでき、成果は上がったか。	① 適切に予算を執行し、けがのない、使いやすい施設になっているか。  ② HP のアクセス数で確認並びに学校メール登録率 100%。  ③ ふれあいフェスティバルに地域人材を活用し、ふれあいが見えた。生活科では、地域のスクールガードの再登録を行い、登下校中の事故ゼロを更新中。	① 階段に九九や算数コーナーを設置。1mmを目で見えるように展示。水槽を整備。砂場の修理。グリーンアドバイザーを設置。等  ② ホームページを全面改定。9月から40000アクセス。(家庭数93) 学校メール登録の保護者 100%  ③ ふれあいフェスティバルに地域人材を活用し、ふれあいが見えた。生活科では、地域のスクールガードの再登録を行い、登下校中の事故ゼロを更新中。	A	○ 引き続き快適な環境づくりを行う。  ○ 適宜更新を行う。 ○ 引き続きメール配信をこまめに行う。  ○ 子どもたちの試行錯誤が可能なふれあいフェスティバルを実施する。	・メール配信はありがたい。引き続きお願いしたい。 ・新しい体験型の行事が増えている。子どもたちの興味付けの一助となっている。